

天塩川水系河川整備計画（原案）に関する意見書

下川町 [REDACTED] 伊東朝子

私は下川町で農業をしております。こんな場所で話しをしたことがないので、お聞き苦しいかと思いますが、少し話しをさせてください。この計画の原案は見てもよく分からないので、これまでの主婦として、また女性としての経験と将来の子供たちのためにお話しします。

名寄川と周辺の水害は、洞爺丸台風の後昭和30年にありました。台風で山の本が大きな被害を受けたためだと聞いております。その後、昭和48年、昭和56年にも大雨が降り恐ろしいほど増水しましたが、ほとんど被害がなくなりました。それは堤防の整備によってです。開発局のお世話になったと思っています。

当時すでに亡くなっておりますが、川原町長が「天塩川の中では下川と名寄の間が一番いい堤防になった、もう心配ない」と言っていました。昨年も増水しましたが、被害も少なく一部農地の低いところに水が貯まった位ですぐに元にもどりました。多くの水がいつまでも農地に貯まって抜けない所にはポンプ場を着けてあげればよいと思います。ですから、サンルダムを造らなければならない理由が良く分かりません。いらないと思います。

今の堤防でこれまで名寄までは大きな被害がなく守られていることは皆さんご存知のことです。話しによると一部にはまだ堤防の無いところがあるそうですけど、おおきな被害になる所ではないようです。下川町から上流について注目されていないようですが、三の橋の上流にも堤防がなくて、昨年の大水の際に畑に水が貯まりました。サンルも農地が水に浸かっていましたが、ポンプを着けてあげればよいと思います。また、サンルの上流はすでに人も住んでいないため問題ないし、今後道路が付け替えられると何も問題なくなります。

このように、今ではおかげさまで、このあたりの被害は小さな所を手当てすれば問題はないと思います。下川町にサンル川がいつものようにあって、いつものように絶え間なく流れている。その素晴らしさがやっと今になって分かってきました。サンルダムを造ったり、名寄川を大きく壊さなくても十分です。そのことよりも、子供たちや孫たちに素晴らしいこれらの川の環境を残してあげることに私たちは知恵を出すときではないでしょうか。

サンルダムには水道水を今より少し多く取ったり、少ないわずかの発電をしたりと色々と付録を付けていますが、どれも必要ありません。何よりも造らなくてもいいものに530億円も出して、サンル川や名寄川を壊し、下流の環境を悪くしていくことをもし今許してしまえば、子孫に申し訳ありません。サンルの森を大きく傷つける、ダム周辺の新しい道路工事も、すぐに工事を中止してもらいたい。これらのことをきちんと主張しないで、いつまでも黙認はできません。私の周辺の人ほとんど同じ考えだということを付け加えます。ではなぜ、サンルダム建設が今まで進められてきたのでしょうか。

下川町内へのダム建設は基本計画が昭和41年にできたそうです。これは私にも記憶にある、昭和30年の大水害の対策の一つとして、やっと10年後になってやっと計画に入ったものだと考えられます。それが今頃になって造られています。すでにダムに頼らなくても、堤防の建設や、川幅を広くしたり、掘り下げて名寄川の安全性が大きく確保されています。

サンルダム建設には、下川町長と町議会議長による関係省庁への強い陳情活動が過去ありました。町内では当時営林署の統廃合、下川鉱山の休山、国鉄名寄本線の廃止があり先行きに希望の持てないときだったのです。町の活性化のため再三陳情して、開発庁ですでに眠っていたダム建設をゆすり起こしたそうです。そもそもここから間違っていたのだと思います。ダム建設を企業誘致か巨大公共事業の誘致と考えると、ダム本来の目的の下流の水害対策は下川町にとっては、さして重要ではなかった。すでに前に話したように、名寄川では下川町や名寄市を守るための名寄川はできていたのです。

ですから、これまでの流れとして、下川町では下流の水害対策のためというのは、建前です。水害対策で上流にダムを造ることは、下流の市町村のため下川町が犠牲になることになるのです。下流の市町村が本当に上流の下川町にダムを求めるのであれば、犠牲になる下川町と住民に正式に一言挨拶があるはずですが、いまだにないのは、下流市町村も水害とサンルダム建設について大して期待はしていないことが伺えます。

下川町は町の活性化のためにダム建設を誘致しました。そのために広大なサソルの農地と農業者を犠牲にしたのです。ここまで来れば後戻りできないと、今考えているはずです。また、開発局はその組織の存続のためには何としても大きな事業をつなぎとめて実績を継続しなければなりません。効果のないサソルダム建設によって、今後も次々と下流の大げさな水害対策工事を続けることができる。こんなこと国民として、町民として納得できないのは当然です。下川町民として恥ずかしい思いをしております。

建前では、水害から下流の流域住民を守ると言いながら、実は下川町の農地や森を奪い、農業と農業者に大きな被害を与えていることに開発局も下川町も反省して下さい。ダムができれば周辺開発で町の振興になると、夢を夢で終わらすのならいいけれど、夢を現実に誘導することには大きな責任が生じます。責任者全員の名前を公表して、失敗した時には町に対する謝罪と保証を明確にする必要があります。

開発局も下川町関係者も町内関係団体も、どこもこんなに財政が困っている時に、国がやってくれるからとか、国の予算がほとんどだからとか言っている場合ではないでしょう。岩尾内ダムで実証されているように、全国のダム湖での地域振興に成功例はないそうです。

ムダなダム建設はすぐに中止して、豊かな自然に囲まれた「北海道遺産天塩川」とその流域を皆さんで守り育て、少しずつでも良くして引き継ぐことが、将来の地域発展には大切な宝になります。これが子供を育てる環境として、また、豊かな人間形成になることだと思います。

天塩川水系河川整備計画原案は、もう一度もっと多くの住民と何度も話し合い、互いに納得して作りあげるものです。このままではだめです。根本的に作り直し、住民に分かりやすい内容にしてから「意見募集」「公聴会」を開かなければいけません。何よりも時間をかけた「話し合いでの合意」が必要です。

天塩川は開発局の川ではありません、私たちと将来の流域住民のものです。